

新型コロナウイルス感染症治療薬 PA-001 の進捗について

ペプチエイド株式会社（代表取締役社長：舩屋圭一、本社：神奈川県川崎市、以下「ペプチエイド」）は、新型コロナウイルス感染症治療薬の開発候補品PA-001に関して、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）の「[新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業](#)」（研究開発課題名：COVID-19治療薬PA-001の非臨床試験及び第I相試験）に採択され、第一相臨床試験の開始に向けた準備段階に入りましたのでお知らせいたします。

新型インフルエンザ、エボラ出血熱、MERS（中東呼吸器症候群）、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）等の新たな感染症（新興感染症）や、 Dengue熱や結核等の再び注目されている感染症（再興感染症）の流行が世界各地で発生し、大きな問題となっています。また、薬剤耐性菌対策のような新たに取り組むべき課題も生じています。感染症の原因となる病原体は刻々と変化を繰り返し、ヒト社会もまた大きく変貌しています。これら感染症対策として、2014年に策定された健康・医療戦略及び医療分野研究開発推進計画の中では、国内外の様々な病原体に関する疫学的調査及び基盤的研究並びに予防接種の有効性及び安全性の向上に資する研究を実施し、感染症対策並びに診断薬、治療薬及びワクチン開発を一体的に推進することとされています。

AMEDの本研究事業は疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課が実施するもので、感染症から国民及び世界の人々を守り、公衆衛生の向上に貢献するため、感染症対策の総合的な強化を目指します。そのために国内外の感染症に関する基礎研究及び基盤技術の開発から、診断法・治療法・予防法の開発等の実用化研究まで、感染症対策に資する研究開発を切れ目なく推進します（AMEDのホームページより抜粋）。

ペプチエイドは、PA-001の日本人健康成人男性30名に対する臨床研究法に基づく特定臨床研究を実施し、良好な安全性プロファイルおよび用量依存的な血中濃度プロファイルの相関を確認して、2022年8月10日にプレスリリースしております。現在、米国FDA（食品医薬品

局) に対する IND (新薬臨床試験開始届) 申請の準備を進めており、2024 年第一四半期を目途に PA-001 の第一相臨床試験開始を予定しております。

今後、PA-001 の開発状況に進捗があり次第、お知らせさせていただきます。

ペプチエイド株式会社 代表取締役社長 舛屋 圭一のコメント

「ペプチエイドの PA-001 プロジェクトが AMED の「新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」に採択されたことを大変喜ばしく思っています。その資金も活用し、米国 FDA に対する IND 申請の準備を進めており、2024 年の早い時期に PA-001 の第一相臨床試験開始を計画しております。」

以上

■ペプチエイド株式会社について■

ペプチエイド株式会社は、「新型コロナウイルス感染症に対して有効な治療薬を世界中の医療現場にいち早く届ける」という社会的意義に賛同したペプチドリーム・富士通・みずほキャピタル・竹中工務店・キシダ化学の5社が、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 治療薬の 開発を目的として2020年11月に設立した合併会社です。ペプチエイドは、治療薬の候補化合物についてペプチドリームから譲渡を受け、非臨床試験からヒトでの有用性確認 (POC) に必要となる前期の臨床試験までを最短で実施することを目指します。ペプチドリームが有するペプチド関連技術・ノウハウを活用することに加え、富士通が有する組合せ最適化問題を高速に解くアーキテクチャー「デジタルアニーラ」やHPC (高性能コンピューティング) 等を活用することで研究開発スピードの加速を図っています。

■PA-001について■

ペプチドリームの初期探索研究によって見出された特殊環状ペプチドに基づき、国立感染症研究所との共同研究により最適化・特定した極めて高い抗ウイルス活性を有する化合物です。コロナウイルスがヒト細胞に侵入する際に必須となるスパイクタンパク質をターゲットとし、野生株に加え現在同定されているすべての変異株に対する抗ウイルス活性を確認しております。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

ペプチエイド株式会社

Email: info@peptiaid.com